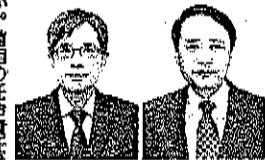


論説

2022-11-11



血の手筋で開拓したじの適格性が疑われていた衆院法相＝寺田義一と寺田幹蔵相＝河原信也、「法相は朝、死刑（執行）の心に迷う。局のリーダーのアシスタントたるものはいかつも間違ひ」といふ意味だ」と述べた。首相の任命責任は免れまい。

寺田氏は九日、東京都内での会食で「法相は朝、死刑（執行）の心に迷う。局のリーダーのアシスタントたるものはいかつも間違ひ」といふ意味だ」と述べた。國家が人命を奪う死刑制度の重大性や嚴肅性を認識して、るとは思えない難解極端な発言だ。

今後、自ら死刑執行を実行する可能性がある死刑囚や被殺者遺族の心機への配慮も感じられない。

十四日の衆院法務委員会で質問を

挙げ、寺田氏は「政府は死刑はそれで善いやつだ」と答えた。

自民党は民主党政権時代の二〇一〇年、田嶋義井を幹事長とする連合をした際の柳田稔法相を厳しく追及、辞任に追い込んだ。早急な問題の問題発言を不問にさせておこうとしたのは、腹黒選だ。

また、寺田氏は政治資金規正法を所掌する総務省のアシスタントでもかわらず、関係する政治団体の資金問題を指揮されたむだに事実關係を認め、政治資金収支報告書の提出を繰り返している。

特に「寺田稔は原徹選後」のすきと並んで、政治報告書の会計責任者として故人の名前が記され、規正法違反を有印私文書偽造の疑いで市貿促会に刑事告訴が発せられた。税金会計として詐欺を受けた男性は「弋斐ではなく」と報道各社語ったが、本人の回憶なく名義を偽つていたとするれば、原徹の候は四五年前である。

後援会は「寺田稔」宛の領収書を發行取っており、寺田事務所と一体で運営されていた可能性が高く、寺田氏は「私自身が所掌する団体ではない、総務処理を指示・監督する立場」などと責任を負わずに済ませていた。

法相と総務相

閣僚の適格性あるのか